

将来像・基本方針の検討

<p>【現行計画での将来像】</p> <p>食の安心 みんなの健康 生活にうるおい ～住み続けたい農のあるまち・西東京市～</p> <p>➡現在は農業によるまちづくりのあり方を示している。 西東京市の農業・農地保全のあり方としての将来像を考え方として付加することは考えられる。</p> <p>【理念】 追加</p> <p>①都市農業振興基本計画により、都市農地の位置づけが、「宅地化すべきもの」から都市に「あるべきもの」へと大きく転換しました。都市の中にある農（農業、農地）は、市民に不可欠な食料を安定的に供給する基盤であるとともに、防災や良好な景観の形成、環境の保全等の多様な機能を有しており、市民の暮らしの維持・向上に大きな役割を發揮します。</p> <p>②気候変動、生物多様性の低下などの環境変化に対して、「みどりの食料システム法」が施行され、生産から流通まで環境負荷低減が求められています。再生可能エネルギーの利用、省エネルギー、温室効果ガスの排出量の削減など環境への負荷の低減に資する生産活動の促進、流通の合理化及び消費を促進します。</p> <p>③国際目標として、国連サミットで掲げられた持続可能な開発目標（SDGs）は、日本でも積極的に取組まれています。貧困問題や経済格差などの社会問題は、食を供給する農として子ども食堂やフードバンクへの農産物の提供など果たせる役割があると考えられます。</p> <p>④ロシアによるウクライナ侵略を背景とした化学肥料、飼料、燃油等農業生産資材の高騰、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大など、食料安全保障への懸念が高まっています。まちの中にある農地であることを活かし、身近な地域で安心安全な農産物が入手できる環境を整備します。</p> <p>【現行計画での基本方針】</p> <p>① 食と暮らしを支える多様な農業経営を展開します。</p> <p>② 多様な担い手が、生きがいややりがいを感じる農業をつくります。</p> <p>③ 都市の貴重な農地を保全するとともに、農地の多面的機能を發揮することで、市民生活に安らぎや潤いを与えます。</p> <p>④ 市民、地域及び行政が一体となり、西東京市の農業を支える取組みを推進し、都市と農業が共生するまちをつくります。</p> <p>➡①農業生産・農産物流通・農家経営、②農業者担い手・後継者・援農、③農地の保全と活用、④農業を通じた交流の4つの方向性の設定は、普遍的な内容として、踏襲する妥当性が高いと考える。</p> <p>➡加えて、持続可能な農業を目指すにあたり、経済・社会・環境の3つの軸により、産業としてのイノベーション、社会課題の解決にも寄与する農業のあり方、環境の視点から地域の風景や災害時対応、ゼロカーボン、エネルギー施策との連動も含めた方向性を提示する。</p>
--

《推進委員からのご意見》

【将来像】

- ・副題「住み続けたい農のあるまち・西東京市」は継続できると思いますが「食の安全 みんなの健康 生活にうるおい」については要検討か。
- ・「次世代へ継承」、「次世代のため」、「次世代が安心して農業を続けることができる」といった未来につながる内容・言葉を盛り込みたい。
- ・緑あふれる潤いのある町づくり
- ・農地は、食・緑の供給基地である
- ・農家の気持ち、やる気によりそった取り組み
- ・農業人の意識改革
- ・一部の農業者は、Gap の取得や、一定レベルの作物を作るグループづくりなどで、個を強くする努力をされているようですが、全体的には、現状をどう維持するかという姿勢の農業者が多いのだな。と感じました。それぞれの農業者で、様々な課題を持たれていると思いますが、守るよりも、攻めていただきたいと思います。
- ・市民の皆様は、地元の野菜は目の届く所で作られている。新鮮なものであるという事をアピールして、近くの直売所等で買ってもらう様にしてもらいたいと思います。その際に農地の大切さもアピールしてもらいたい。
- ・農業者側の視点も読み取れる言葉が入るといい
- ・担い手については「多様な担い手が、生きがいややりがいを感じる農業経営」という表現にすべてが包摂されているとも言えますが、西東京市には都市農業の利点をいかして経営の飛躍を目指す非常に意欲的な農家もいるので、こうした、いわばトップランナーを育て支援する観点もどこかに表現できたら良いように思います。
- ・狭小な農地も含め、農地は「かけがえのない地域の宝であり、守るべきもの」というメッセージを込めた表現にしていけたらと思います。

【基本方針】

- ・文言等の修正があるかもしれませんが大きな柱は引き続き継続すべき内容と思います。
- ・基本方針の①と②は逆転させることも要検討か。
- ・基本方針①→収益性が高い西東京市ブランド農産物の推進、など
- ・基本方針③→環境を保全し、持続可能な社会を目指します など
- ・基本方針④→子供たちへの食育、若者の力の活用、一般市民との連携により、地域及び行政が一体になり・・・ など

【体系の整理イメージ全体】

- ・4つの縦軸と3つの横軸により施策を整理する体系。3つの軸という視点は良いと思うのでそのような視点について述べるとして、全ての施策が図のようにクロスさせた図の中にうまく当てはまるかどうか。
- ・重点的に取り組む課題をいくつか整理し、そのための施策内容、取り組む仕組みという整理も必要かも。
- ・都市農業振興基本法を踏まえ、「農地はあるべきもの、持続すべきもの」と、市としての方針にも盛り込んで頂いているのは大変素晴らしく、評価できる点だと思います。
- ・縦軸の(2)の最後の経営はなくてもよい。農業経営は(1)と重複してしまうので。
- ・良い方向の施策と感じた。しかし、これをどう実現するかが課題だ。
- ・市内の農地は宅地化等により減少する事はやむを得ないと思います。ただ様々な支援、工夫等により、農業継続の選択肢を増やして頂ければ、減少量を少なくできるのではないかと思います。
- ・体系は単独ではなく、相互に関わってくるような体系図や文言を冒頭なりにうたいますか
- ・提案のとおり整理する方向でよいと思います。

体系の整理イメージ

4つの方向性と3つの軸により、以下体系を整理する。

(□:既存施策の継続展開 ■:新たな施策展開)

	経済	社会	環境	
(1)食と暮らしを支える多様な農業経営 農業生産・農産物流通・農家経営	<p>専業農家から小規模農家まで、経営が成り立つ支援をします。</p> <p>■規格外品等一次加工利用の推進 ●規格外品一次加工利用の推進</p>	<p>近隣消費のニーズや社会問題に対応する流通を促進します。</p>	<p>新鮮で、環境負荷を低減する安心安全な農産物の生産を支援します。</p>	
	<p>□安定した販路の確保と生産拡大の促進 ○地域（飲食店、商店街、加工業者等）との連携 ○学校給食（保育園を含む）との連携</p>		<p>■持続可能な農業に取り組みやすい環境の整備 ●新鮮で安心安全な農産物の理解促進・PR ●有機農業の促進 ●省エネルギー、脱炭素に対応した農業生産、流通、消費の仕組みの整備</p>	
	<p>□市内産農産物の付加価値の向上 ●新品目・新技術の導入の推進 ○めぐみちゃんブランドの普及啓発</p>	<p>■市内産農産物の周知・理解促進 ○めぐみちゃんメニューの推進・発展 ○めぐみちゃんブランドの普及啓発</p>		
	<p>□地産地消の推進 ○直売所の周知と機能向上による利用の促進 ○公共施設等での販売機会の提供 ●SDGs、食品ロス対策の推進 ●子ども食堂やフードバンク等との連携</p>			
	<p>■農産物生産以外の新たな農業収入の確保 ○市民農園、体験農園開設の推進</p>			

【記載内容へのご意見】

- ・市民・農業者へのアンケート内容等を反映されていると存じますが、「経済」の項目で、「新鮮で安全な農産物の供給」をうたった方が自然な流れのように感じました。「環境」の部分では、「安心安全の理解促進」の部分でうたわれると良いかと思います。
- ・同じく「経済」の項目で、「新品目の導入の推進」も、「新品目・新技術の導入の推進」として、品目のみならず新しい技術の導入も併せて付加価値向上を図るということをお願いしてはいかがでしょうか。
- ・また、「社会」の項目に記載されている「安定した販路の確保、販路を拡大する方策」は、どちらかという農家の経営の問題になりますので、「経済」の項目に入るのかなと思います。
- ・新鮮な野菜をどこの場所でいつ販売しているのかをもっと気軽にみんながわかるようになれば、市民の購入場所として認知され必要性を感じてくれると考える。
- ・施策の目的とそれを実現する手段という形で記載したいところ。市内産農産物の付加価値向上、新品目の導入の推進は手段？目的？食品ロスの削減が目的で、規格外品等の加工利用推進は手段？など
- ・すばらしい内容だが、これをいかに農業者に浸透させるかが課題だ。
- ・規格外という基準は、農業者が作ったものではないのではないかと思います。大きい、小さい、形が悪い程度のものは、流通にのせるべきだと思う。同一規格を同一価格で売る必要はないと思います。消費者にも幅広く選ぶ権利が生まれ、楽しめると思います。
- ・昔の農家の大量生産、市場出荷とはちがいで、今はほとんどが直売所あるいはスーパー等との契約出荷へと変わっている。JAともっと連携してもう少し広い範囲でのブランド開発等をして良いのではないかと思います。
- ・「農地面積が小さくても」と後段の言い回しがリンクしない気がします。
- ・今は出荷されるほとんどの作物がビニール袋に入れられていますが、量り売りにできないかと思っています。売り場での負担は増すと思いますが、生産者の負担は減るのではないのでしょうか。直売所などでは、消費者とのコミュニケーションも生まれやすくなると思いますし、脱プラスチックの推進に寄与すると思います。
- ・地方では、太陽光パネルを設置し、農業用電力はそこで賄い、パネルの下でも育てられる野菜をつくる。ということをしているようですが、西東京市では検討されているのでしょうか。
- ・「○気候変動や生物多様性の低下などの環境変化に対して『みどりの食料システム法』施行、生産から消費までの環境負荷の低減が求められる」
農業者が販売する生産物とは一線を画して、市民が農業に親しむため、安心して農作業を体験するために、また同時に、持続可能な農業（将来も生物多様性に富む環境を維持する）を実施していくためにも、農業体験農業は無農薬、低化学肥料で行うべきだと考えます。

【追加すべき・追加してほしい内容】

- ・「経済」の部分で、「直売所利用促進」を、具体的に、「直売所の周知と機能向上による利用促進」とするなど、市民に対して直売所の認知を促進していく面を強調されてはいかがでしょうか。
- ・「経済」の項目で、「市内産農産物の付加価値向上（ブランド力強化）」と付け加えてはいかがでしょうか。
- ・稼げる農業の方策の手段に、物販だけでなく、農作業体験や農業講座などサービスを売る(コト消費)内容も盛り込んでも良いのでは。
- ・東京都エコ農産物認証の取得推進を、(1)か(2)の環境関連の手段として追加してほしい。
- ・食物生産者が中心の施策で、植物生産者への配慮を追加してほしい。
- ・経済にも「学校給食」について触れてはどうか

(□:既存施策の継続展開 ■:新たな施策展開)

	経済	社会	環境
<p>(2) 多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業</p> <p>農業者担い手・後継者・援農</p>	<p>農業収益力の向上を図り、農業経営意欲を促進します。</p> <p>□意欲ある農業者への技術的支援・資金的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認定農業者農業経営改善計画への支援 ●認定農業者への支援拡充の検討 ○新たな支援策の調査・研究 ○営農支援事業の適正運営 	<p>多様な担い手の確保・育成をします。</p> <p>□援農ボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業者と多様な役割の援農ボランティアの適切なマッチング機会の提供 ○援農ボランティアのスキルアップ 	<p>持続的な農業の担い手育成をします。</p> <p>■農地保全を担う農業者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●農の風景育成地区制度の検討 ●農地保全を担う(農ある風景を守る)農業者への支援検討
	<p>□若手農業者や女性農業者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業者同士、農業者と周辺住民の交流機会の創出 ○後継者・新規就農者育成施策の充実 ○JA や東京都など地元と連携した後継者育成 		<p>■持続可能な農業の担い手支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有機農業など環境に配慮した農業に取り組む農業者への支援検討
	<p>■次世代の担い手への技術継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ●農業者の技術、生産技術に加え、販路開拓や経営のスキルの継承 	<p>■次世代の担い手となる農業者確保のための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学生との連携(生産作業手伝いだけでなく、幅広い援農) 	

【記載内容へのご意見】

- ・「経済」の項目の「意欲ある農業者への支援・資金的支援」は、より具体的に「意欲ある農業者への技術的支援・資金的支援」とされるのはいかがでしょうか。
- ・「経済」の項目の「販路との関係づくり」は「販路開拓」の方が文言として自然に感じます。
- ・「農業の維持を担う(農ある風景を守る)農家」とはどのような農家のことですか。
- ・「環境負荷の低い農業の担い手支援」とありますが、「環境負荷の低い農業」では意味が伝わりにくいと感じます。「環境保全型・持続可能な農業」という表現は不適切でしょうか。
- ・意欲ある農業従事者とのマッチングを今後増やしていく必要がある。
- ・「農のある風景を守る」は(3)の農地の保全のようにも感じる。
- ・良いと思う。
- ・援農ボランティアに参加させて頂いています。支援農家や、ボランティア仲間とも良好な関係が築け、私自身はとても楽しく、充実して活動させて頂いています。農のアカデミーで感じた事は、高齢化です。高齢化した農業者の所へ高齢者のボランティアが行く。老々介護の様な状態にならないように、若手のボランティアの確保も検討が必要ではと思いました。
- ・後継者等への育成施策の充実と書いてあるが、具体的なものがわからない。もう少しこまかな施策説明がほしい。
- ・資金的な支援とは、環境部門の農家支援との違い

【追加すべき・追加してほしい内容】

- ・若い農業者同士(新規参入者もいるので)の研修や交流の場の設定。生産部会以外にはあるのでしょうか。部会以外で広く研修することが必要になってきているように感じます。
- ・経営基盤(収入)が担保されなくては農業の将来はない。
- ・女性農業者の記載を追加してほしい
- ・※今後、委員会で話し合ってみたいこと
 - 女性農業者の活躍が不可欠なので、どこかに盛り込むべきではないでしょうか。
- ・まだ就農していない農家の後継ぎ(サラリーマン等)も「未来の担い手」としてとらえて施策を講じる対象にできないでしょうか。
- ・他地域では認定農業者の組織化(「〇〇市認定農業者の会」など)が進んでおり、西東京市でも今後のテーマとして掲げられないでしょうか。
- ・学生ワークショップなどで大学生の方々の意見もせっかく取り入れられていますので、「周辺地域を含めた学生との連携」など、学生の力の活用の部分も今後ご検討頂いてはいかがでしょうか。

(□:既存施策の継続展開 ■:新たな施策展開)

	経済	社会	環境
(3) 農地の保全と活用	農地の保全と適切な活用を目指します。	農地の防災、交流創出機能を十分に発揮します。	農地の景観創出、環境保全機能を十分に発揮します。
	□次世代農業者の農地確保と生産緑地の保全 ○農地の貸借における仲介推進とフォロー体制の強化 ○担い手(後継者・新規就農者等)の農地確保の推進 ○農地の適正な肥培管理 ○生産緑地地区制度への対応	□多面的機能の発揮 ○農業体験・交流型施設の活用と発展 ●災害協力農地の拡大と農地の防災機能を発揮できる環境の整備 ●まちの中の“みどり”としての農地の役割を發揮できる環境の整備	■ゼロカーボンに寄与する農地活用の検討 ●環境保全に寄与する農地への支援
	■農地保全と未利用農地 ●未利用農地の学校農 ●農地パトロールのDX		などの適切な活用促進 園等市民利用の促進 活用など新技術の活用

【記載内容へのご意見】

- ・(2)「多様な担い手」でも新規就農者育成施策の充実がうたわれていますので、「経済」の項目で、「担い手・後継者の圃場確保の推進」→「担い手・後継者・新規参入者の農地確保の推進」の表現ではいかがでしょうか。
- ・今後は、農地貸借がポイントとなる。現状を考え、若年層の農家が増えることはまず考えられない。行政・JAの連携を踏まえ、時間にゆとりがある年代(60歳代以上)をターゲットに絞り農業に関するコミュニティやスクールなど開講し、農地の借りやすい環境を整える必要があると考える。
- ・農地の保全には、担い手、後継者のやる気があっても相続争いが起きてしまつては、維持できない事がある。
- ・委員会の際に出ていた、定年退職された方で、農業に興味のある方に手伝ってもらう。若しくは貸し出す。というのはとても興味深い意見でした。
- ・もし、耕作放棄地が、学校の側にあった場合は子供たちのクラブ活動や課外活動で利用してもよいのではないかと思います。また、農のアカデミーでも利用させていただけたらと思います。
- ・耕作放棄地の表現が適切ではないのでは、未活用などの表現
- ・農地パトロールでは、草を刈れたの、木を切れたのの指摘しかしてないが、農地の貸借とか、管理の方法とかをアドバイスした方が有効だと思う。

【追加すべき・追加してほしい内容】

- ・農地所有者への農地保全と十分な活用へのアピール、困難な場合相談に乗る窓口の設置。
- ・「社会」の項目で、「農業体験・交流型施設の活用」を、「農業体験・交流型施設の活用と発展」とし、既存の農業体験農園等の活用のみならず、今後の新設・発展も期待する内容としてはいかがでしょうか。
- ・「宅地化すべきもの」から「あるべきもの」へといった方向性を盛り込みたい。
- ・生産緑地の記載を追加してはどうか

(□:既存施策の継続展開 ■:新たな施策展開)

	経済	社会	環境
(4) 農業を通じた交流	<p>交流創出機能を活かして、農業経営を安定します。</p>	<p>将来を担う子どもたちや近隣住民へ都市農業への理解を促進します。</p>	<p>農を通じて、生活の豊かさを提供します。</p>
	<p>□農商工・産学公連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業と異分野(民間企業等)との交流・連携機会の創出 ●市内小中学校、高校、幼稚園、保育園、大学等との交流・連携機会の創出 ○東大生態調和農学機構との連携 ●農福連携の推進 	<p>□農業者と市民、子どもたちとの接点機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市内農業をPRするためのイベント開催 ○農業普及啓発プロジェクトの活用 ○めぐみちゃんメニューの推進 	
	<p>□市民農園の新しい展開と農業体験農園の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民農園、農業体験農園等の開設、増設へ整備支援 ●市民農園、農業体験農園等の利用促進、周知 	<p>□農業・農産物への理解増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内の農の魅力情報発信 ○市内産農産物のPR 	

【記載内容へのご意見】

- ・市民農園で育てた農産物品評会、JAを起点とした農業イベント、東大農場の土地を利用した農業企画等、行政等との調整も必要となるが農と市民が接点となる機会を増やすことにより西東京市全体が盛り上がるのではないかと。
- ・地産地消は(1)に含めたいところ。
- ・良い考えだと思う。
- ・とても不定期で、告知が難しいかもしれませんが、生産計画をもって、取り組まれている農業者でも、完全に計画通りにいかないこともあると思います。収穫の段階でそのようなことになった場合、単発で市民に収穫体験をしてもらうのはいかがでしょうか。周りの農地があらされないように見守ったり、作業の手伝いなどでボランティアを募る。等の準備が必要かと思いますが、ただ廃棄とするよりは、市民との交流も図れるのではないかと思います。
- ・ここまで宅地化された市内では、市民との交流、理解は不可欠だと思うので、様々な交流の方法を増やしてもらいたい。
- ・異業種とは例を記載しては
- ・西東京市の農業・農地が「あるべきもの」として方向転換したことを受けて、これからは保全していく、皆で守っていくものとして位置づけられました。このような状況でできることは、私は「農業体験」だと考えています。「農業・農地の多面的機能の発揮」において、市民の農業体験は不可欠だと思います。子どもや高齢者も含む一般の市民が参加する農業ですので、なるべく農薬を使用しない、化学肥料を使用しない農業で安心して自らが野菜作りに関わることができ、そのような機会を提供していく都市農業であってほしいと思います。子どもからお年寄りの市民のための安全・安心の野菜作りです。宅地がほとんどを占める西東京市の農業に求められているのは、市民の農業に対する関心を高めることです。体験することによって、農業・農業者に対する理解も深められると思います。無農薬農業を体験することで、なぜ一般の農業では農薬や化学肥料が必要なのかということも理解できるようになると思います。
- ・農業への関心が高まり市民農園や体験農園へ市民の関心がおおきくなっている感じがするが、そこを農家をマッチさせる手段がなかなか難しいのが現状ではある。
- ・市民農園や体験農園の開設については農家の方も意欲はあるが何もしなくてよいと捉えてる方が多い。市民が農業に関心を持っている今そこを結びつけていきたい。

【追加すべき・追加してほしい内容】

- ・「農業を通じた子どもたちとの交流機会(食育等)の創出、充実(親子で野菜づくりにチャレンジ、めぐみちゃんメニューの推進など)」の中に「学校農園」も追記してほしいです。
- ・食育や企業の福利厚生を目的とした、市内の小中学校や高校、大学、企業との交流機会の創出。農福連携など。
- ・農業人の意識改革が必要。まずは、畑の周囲の市民との交流、農業を理解して頂く努力に努める事が、農業を通じた交流の始まりだと考える。
- ・近隣住民との折り合いも大切。ニュースでもあるように田んぼのカエルの声をどうにかしてほしいとの苦情があったりと農業に理解を示されない方との共存を考える必要がある。農薬の散布や肥料のにおい等は農家の方も気を使って早朝におこなったりしているがそれでも近隣の方からの意見があったりする。